

9月4日に「全体合同部会」を開催しました！

9月4日(火)の午前中、さぽーとぴあで、協議会の新しい取り組みになります「全体合同部会」を行いました。はじめに、白井会長から全体合同部会開催までの経緯と今年度の協議会のキャッチフレーズのお話がありました。次に、各専門部会長はじめ運営委員のメンバーがそれぞれの「つながる」「わたす」「ひろげる」について報告。そして、「なんでこのテーマを選んだのか自己紹介」とテーマについて普段感じていることをグループで話し合い、掲示物を作りました。最後は、76人の参加者全員で各グループの掲示物を見て回りながら情報交換をしました。グループでの各専門部会間の交流だけでなく、自然な名刺交換や交流の場が会場のあちらこちらにできていました。今回の企画と内容の振り返りは、専門部会、第2回本会でを行う予定です。

# 大田区自立支援協議会だより第17号

平成30年9月発行



【編集・発行】大田区自立支援協議会

【事務局】大田区立障がい者総合サポ-センター [電話] 03-5728-9133 [FAX]03-5728-9136

「大田区自立支援協議会」は、障がい児・者の地域での自立した生活を支援するため、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者が参加して定期的な協議を行い、地域での課題について情報を共有し、連携を取りながら、具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。

## 平成30年度の大田区自立支援協議会がスタートしました

11年目を迎えた大田区自立支援協議会～更なる歩みの始まりに寄せて～

大田区自立支援協議会会長

(西武文理大学サービス経営学部健康福祉マネジメント学科 准教授)

白井 絵里子

平成最後の今年、自立支援協議会(以下、協議会とします。)は11年目を迎えました。これまでの10年の歩みを今年度の活動へつなげていくため、第1回運営会議で今年度の協議会の進め方について話し合いが行われました。その結果、今年度は「きなるのくらしへ～つながる・わたす・ひろげる～」というキャッチフレーズのもとで活動を行っていくことが確認されました。色付けをされていない布や糸が持つ本来の色のことを指す「きなり」。“ご本人やご家族も様々な立場で関わる支援者もみんなが元気になるような協議会の活動をしていきたい”という思いをこの言葉に込めました。この思いを形にしていくために、①つながる、②わたす、③ひろげることを意識して活動を進めていきたいと考えています。

①つながる、②わたす、③ひろげることを実現する一つの活動として、協議会委員、専門部会のみ委員の参加を中心とした「第1回全体合同部会」の開催を企画しています。異なる部会の委員同士が顔を合わせ、お互いに知り合う機会をつくることで、各委員が所属先での業務や日々の生活の中で「つながる」ことができる糸(人)を増やし、その糸(関係)を太くしていけるきっかけにできればと考えています。

異なる考え方に触れることにより発想の仕方が変わったり、視野が広がる可能性もあります。各部会活動の中で育まれてきた経験知や各委員が持っている支援の秘策を相互に「わたす」ことで、思いがけない波及効果が生まれることを期待しています。全体合同部会への参加には人脈というお土産がついてくるかもしれません。

さらに、このような活動を協議会の場を越えて「ひろげる」ことを目指しています。そのため、「石橋をたたいたら、それぞれの一步で渡る(解決することが難しい課題に直面したら、少しでも改善につながることを各自ができることから始める)」ことも必要だと考えます。

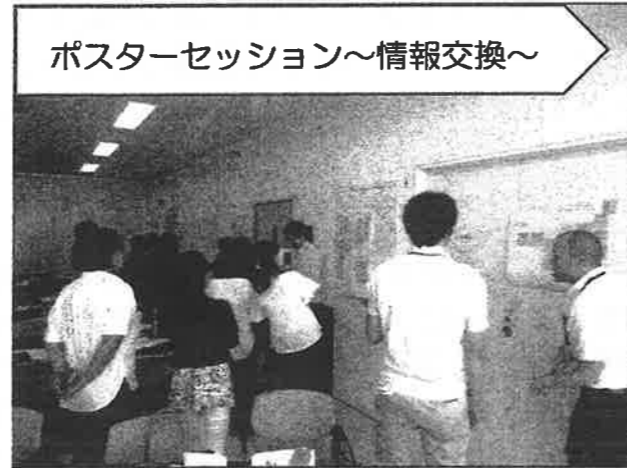
以上のような活動を通して、「つながることのできる糸の先を増やし、その糸を太くしていくことがネットワークをつくることである」と各自が実感できるような1年にしていきたいと思っております。11年目を迎えた協議会は、「つながり、わたし、ひろがることのできる場」を用意して皆様の「協議会デビュー」をお待ちしております。



グループで



ポスターセッション～情報交換～



### 協議会勉強会・公開セミナー決まる！

○防災部会では、10月29日(月)10時から「協議会委員を対象とした」勉強会を行います。昨年度に続き、鍵屋一さん(跡見女子大学教授)をお招きし、ワークショップをとおして、それぞれの参加者の防災への係わりが確かめられるような研修を予定しています。

○地域移行、地域生活支援部会では、12月21日(金)10時からさぽーとぴあ5階で、区民の皆様にも参加していただけるような公開セミナーを行います。講師は、神奈川県藤沢市でURの団地の空き室を利用した小規模多機能型居宅介護事業所を中心に地域を巻き込んだ活動をしている「ぐるんとびー」代表の菅原健介さんです。

### 平成30年度大田区自立支援協議会 第2回本会開催のお知らせ

**日時:平成30年10月26日(金)13時30分～15時30分**

**会場:障がい者総合サポートセンター 5階多目的室**

「本会」では「自立支援協議会委員」によって、自立支援協議会としての協議を行っています。年3回公開で開催しています。

第2回本会では、各部会の上半期の活動報告や地域課題の確認、全体合同部会の振り返りなどを行います。

\*どなたでも傍聴可能です。会場の都合で先着20名様までとなります。

編集委員から

<次回の大田区自立支援協議会だより第18号は平成31年1月下旬の発行の予定です。>

## 今年度の専門部会は・・・

平成30年度も大田区自立支援協議会では、

- ①相談支援部会 ②防災部会 ③就労支援部会 ④こども部会  
⑤地域移行・地域生活支援部会の5つの専門部会が活動しています。  
今年度の各専門部会の取り組みを各部会長からお伝えします。

### 相談支援部会 部会長 神作彩子

この「だより」を手にとられた皆さんは、どんな時に、誰に、「相談」をしますか？

何か困ったことが起こったときに、悩みがあったときに、なんとなく聞いてもらいたいときに・・・、家族、友人、上司や同僚、専門的な知識をもった人や、電話相談など、見ず知らずの人に・・・。「相談」することによって考えがまとまったり、いろいろな視点で見ることができるようになったり、自分では思いつかなかった解決方法が見つかったり、語るだけでもスッキリすることもあります。

「障害福祉サービスにおける相談支援」では、障がいがある方の地域における生活を支え続けるために「相談」を受け止め、包括的な支援をすることが求められています。相談支援部会では、その包括的な支援において、次の2点を意識して活動しています。

- ①「大田区」という地域にどんな課題があるのか、  
個別支援会議をとおして抽出し解決にむけて考える。

- ② 大田区の相談支援体制の在り方を考える。

協議会活動をとおして「相談」がより現実で有効なものになりますよう、皆で知恵をしぼりだして実際の活動をしていきたいと思えます。



### 防災部会 部会長 志村陽子

防災部会には、今年度も当事者委員と意識の高い支援者委員が積極的に参加、地域生活の実感ある課題意識に基づいた取り組みを展開しようとしています。

ヘルプマークを活用したツールづくりとその周知啓発は継続。今年度は、その中でも実際に「ヘルプカード」を利用した場面での効果や改善点を探るため、そのエピソードを収集して取りまとめようと考えています。

地域の皆様との交流が図れる総合防災訓練へは、今年度で7回目の参加。その実施地域の状況などを、参加される皆様と情報交換したいと思っています。また、特別出張所との連携を目指し、可能な所から関係作りを取り組もうと考えています。

さぼーとびあが積み重ねている「福祉避難所開設訓練」への協力から、昨年度は各福祉避難所協定施設へのアンケートに取り組みました。今年度は他に、関わる事業所等へのアンケートも実施し、今後、必要な取り組みを探っていこうと考えています。



### 就労支援部会 部会長 鶴田雅英

就労支援部会では、「①ひきこもりや若者等グレーゾーンと言われる方たちとどうつながるか、②多様な働き方、③法内化された定着支援の開始を迎えて」等について検討を進めています。多様な働き方のうち、就労継続支援B型事業所（作業所といわれていた障がいのある方が働く施設）での働き方から見えてくる課題について紹介します。

2006年に自立支援法（現・総合支援法）が施行され、就労移行支援事業という障がい者就労支援の新しい事業形態が生まれました。それまで障がい者と企業を結びつけていたのは、大田区においては、B型事業所が中心でしたが、現在では、就職者の多くは、就労移行支援事業所から輩出されるようになってきています。そんな中、就労希望者は、就労継続支援B型事業所よりも就労移行支援事業所を選ぶ傾向が強くなっているようです。これは就労系施設の構造的な変化であり、役割の変化ともいえます。施設を選ぶ側の変化も起きています。そこで、今年度の課題のひとつとし、施設で働くこと、施設の役割について検討をしていきたいと思えます。



### こども部会 部会長 宮崎渉

私は、今年度よりこども部会長を務めさせていただきます「くれよんくらぶ」（放課後等デイサービス）の宮崎と申します。今回は、この紙面をお借りして、今年度のこども部会の活動についてお話をしたいと思います。

まず、第一に、一昨年度より継続して作成して参りました「発達支援マップ」を実際の現場で活用し、その検証をしながら制度を利用される方々への一助としたいと思います。

次に「地域課題の検討・課題解決に向けて」という内容で、事例検討を行う予定です。また、引き続き「児童発達支援地域ネットワーク会議」との合同研修会の開催も計画しております。その一方で、障がい施策推進プランや子育てかがやきプランの確認検討や委員の方同士の情報提供と意見交換も実施していく予定です。更に今年度より協議会全体の動きとして、他の部会と合同で研修等実施する「合同部会」の開催にも力を注ぐつもりであります。

この地域に暮らす子どもたちとその家族が、安心して暮らせるためのひとつの力となれるよう精進したいと思います。

### 地域移行・地域生活支援部会 部会長 伊藤朋春

今年度の部会は、新たな3年の始まりです。協議会全体でのテーマ「きなの暮らし」をめざして、様々なヒトがつながり、つながったヒトから小さな知恵を渡したり渡されたりし、それが様々なヒトを通じて広がっていく。そんな「つながる」「わたす」「ひろげる」を大切にしながら部会活動に取り組み始めています。

委員それぞれが当事者、家族、支援者という立場に捉われず、様々な理由により大田区で暮らすことができなかつたり、暮らしづらさを感じている人たちを支えることができる「仲間」として係わっていこうと思えます。

部会では、障がい別のワーキンググループを作り、解決策を「だれが」「どのように」行うのか、見学や学習会を行いながら、明確にしていきます。そして、自分自身が活用できるような「発信先マップ」等に情報を反映させ、見える化にも取り組みます。

